

高槻 まちかど遺産 H25-11



## 大峰山 日丸講石燈籠

日丸講ひのまる こうは、奈良と和歌山にまたがる修験道しゅげん どうの聖地おほ みね・大峰山さんを参拝するために、富田の人びとで結成された講(集団)です。

この石燈籠とうろうは、江戸時代の文政11年(1828)に建立され、講せん だつの先達(登山案内人)の名などが刻まれています。参拝登山は、若い男子にとって成人の儀式も兼ねていたといい、燈籠には旅の無事などを願って灯明が奉げられたことでしょう。

ここは富田の南出入口にあたり、燈籠の東向いには、明治時代に大阪府が建立した道標も残っています。

平成26年3月 高槻市教育委員会

### 大峰山 日丸講石燈籠

日丸講(ひのまるこう)は、奈良と和歌山にまたがる修験道(しゅげんどう)の聖地・大峰山を参拝するために、富田の人びとで結成された講(集団)です。

この石燈籠は、江戸時代の文政11年(1828)に建立され、講の先達(せんだつ)(登山案内人)の名など刻まれています。参拝登山は、若い男子にとって成人の儀式も兼ねていたといい、燈籠には旅の無事などを願って灯明が奉げられてたことでしょう。

ここは富田の南出入口にあたり、燈籠の東向かいには、明治時代に大阪府が建立した道標も残っています。

大峰山は、奈良県にある「日本百名山」にも選ばれている山です。古くより修験道の場として知られており、各地から人が訪れます。

※01 富田に、行者講、伊勢講とがありここより歩いて大峰山へ行かれました。

※02 大峰参りは村の一大行事であり、特に青年に達する男子は全員が参し、終えた者が一人前と認められました。

その出発は、大阪口からでした。早朝の出発にあたっては励ましを、夜の帰参の折りは無事を讃えて点灯されたことでしょう。